

肩関節撮影

福岡整形外科病院
釣宮慎次郎

当院における撮影方法

・肩関節撮影

1. 解剖
2. 撮影方法
3. 診断(症例)

撮影の本には画像を得る為の角度を表記している。しかし、骨格、性差、年齢別形態、個人差等があり、非常に大きさ、これで一概に評価できるとは思ひが、個人差は非常に大きいとされる。診断に有用な角度を一定の角度で表す事はあり得ないと思われる。診断に有用な角度を一定の角度で表す事はあり得ないと思われる。診断に有用な角度を一定の角度で表す事はあり得ないと思われる。診断に有用な角度を一定の角度で表す事はあり得ないと思われる。

-1-

肩関節の不安定要素

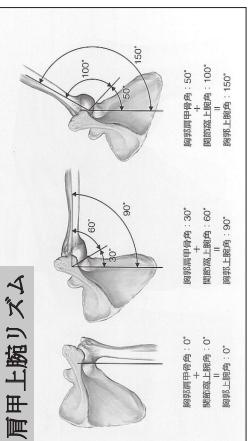
1. 人体最大の可動域を持つ
2. 関節面接觸面積が小さい
3. 滑膜、関節囊
4. 他の関節のように柔軟な運動機能がない
5. 前十字靭帯のような等位関節がない

骨制御・韌帯生牽引に乏しい

肩関節の安定要因

1. 骨性要素、関節内圧、関節容積、軟骨面の接着、関節唇(微少外力に対する抑制帶)
2. 韌帯、上腕二頭筋長頭、肩甲骨肩屈筋(骨頭を関節腔内に押さえつける)
(受動的抑制体・動的支持機構)
3. 関節包、関節上腕筋

肩甲上腕リズム



上腕を肩上する時(glenohumeral joint(肩甲上腕関節))とscapulothoracic joint(肩甲上腕筋)がそれぞれ運動、回転して腕が持ち上がる。これら二つの関節が受け持つ固定の軸が決まっている。その比2:1であるとされていて、例えば、上腕を90度肩上げした時、glenohumeral jointで60度、scapulothoracic jointで30度となる。

この肩甲上腕リズムは、肩関節に疼痛を伴う患者様ではしばしば検索される

-2-

角度を付けなければ肩関節が握り辛いが、角度を付けて握ると肩関節内に挿出され肩関節鏡像の形態を把握しにくく。**図5**次に腰からお腹腰をするようにして、上体を前方に傾ける。健側の手で何かを握るか、腰筋を立たせる撮影台に付けておくと安定する。この時、腰の骨と肩峰の上方部分が揃う角度に腰管筋の入射角度を合わせる。**図6**、**7**。20度を超えると骨頭部分や関節窩の形態が大きく変化し診断に影響する。(当院の医師案)お辞儀をするように大軸を頸部の後方と想定して、そのままでは腰骨上方と肩峰上方部分が20度超えてしましまう事が有るので、20度以内で腰骨と肩峰に腰骨を握る必要はない。又、椅子に座らせるごとに安定性はよいがボルジニングが難しい事が多い傾向にある。



図5



図6

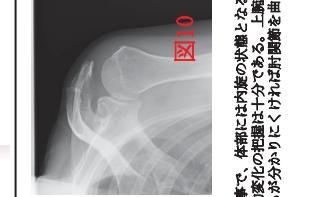
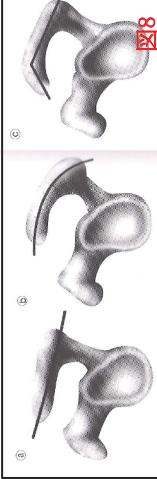


図7

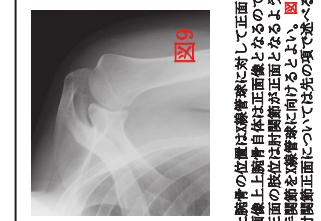
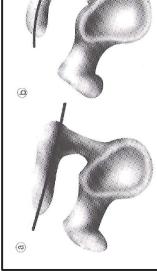


図8

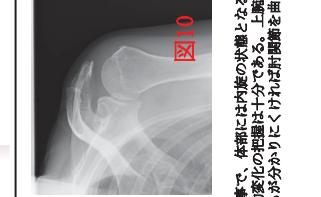
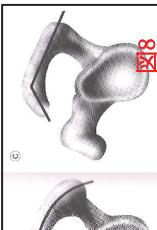


図9

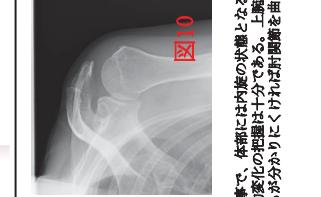
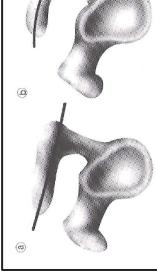


図10

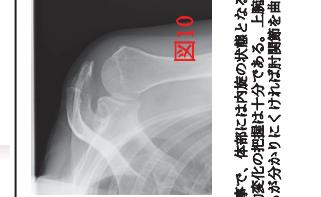
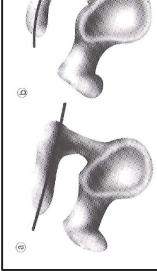


図11

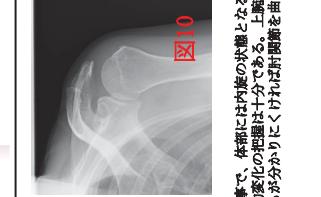
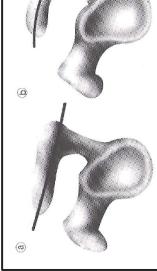


図12

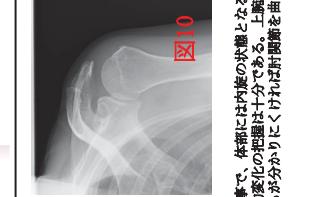
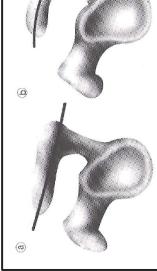


図13

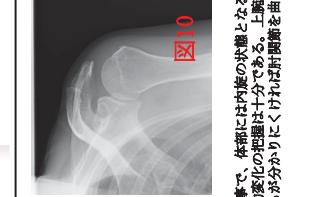
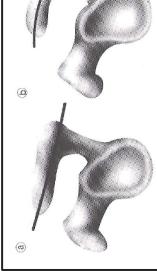


図14

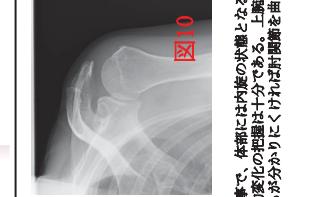
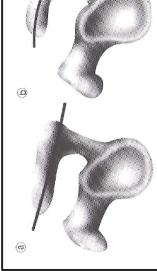


図15

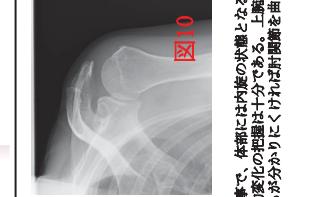
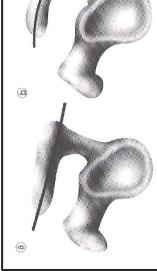


図16

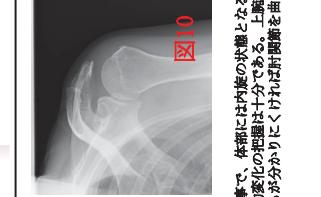
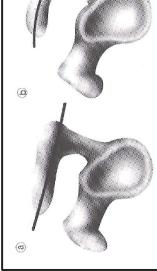


図17

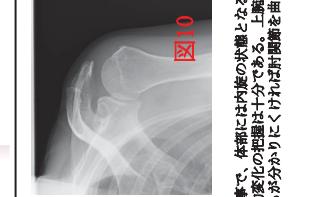
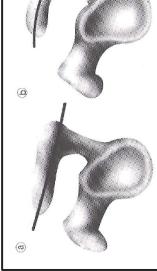


図18

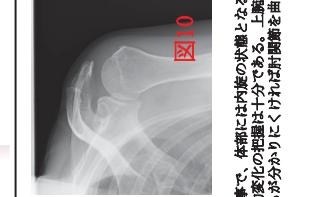
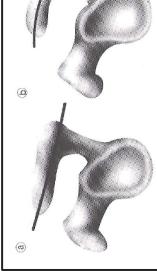


図19

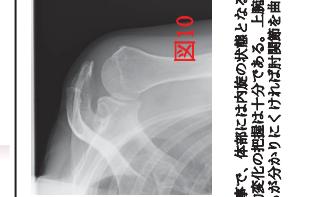
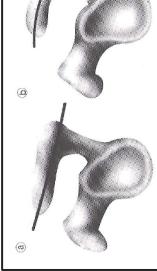


図20

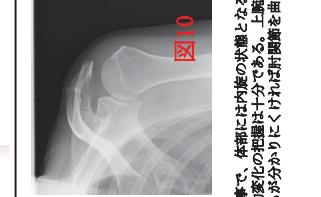
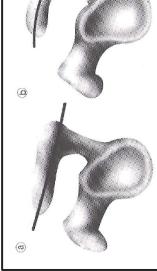


図21

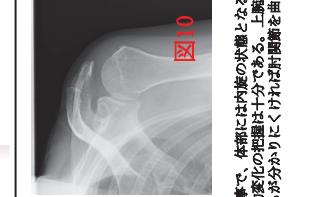
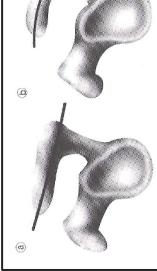


図22

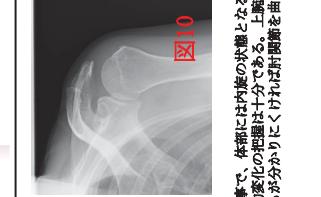
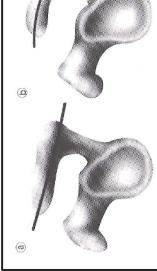


図23

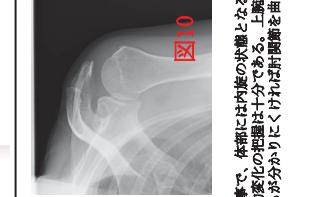
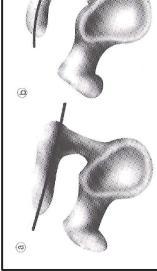


図24

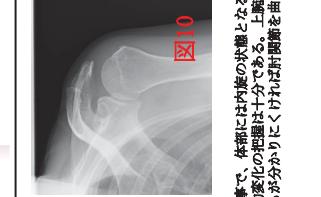
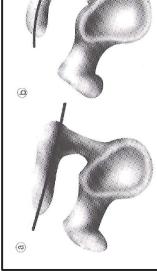


図25

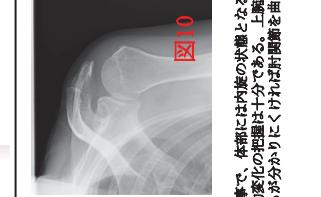
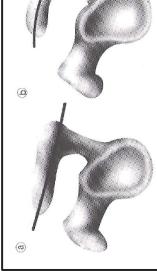


図26

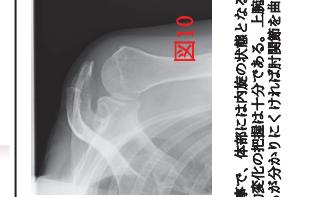
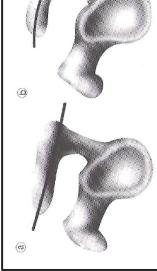


図27

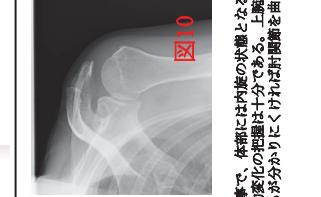
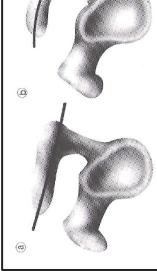


図28

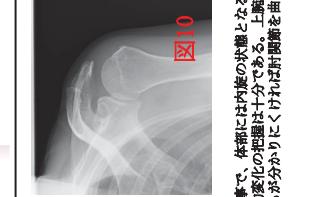
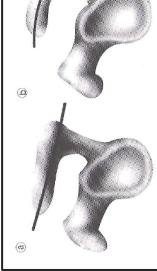


図29

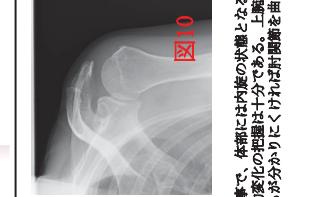
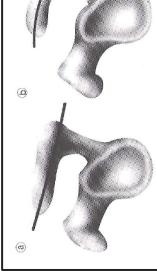


図30

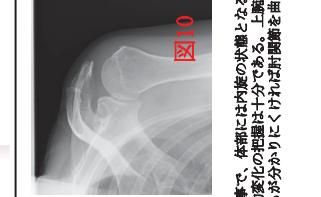
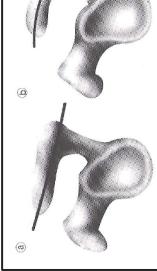


図31

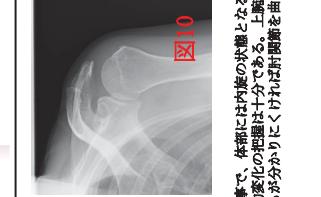
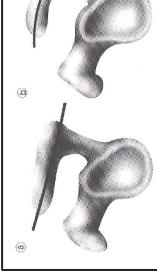


図32

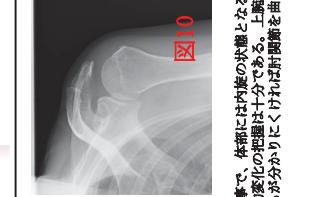
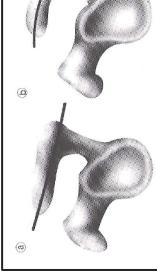


図33

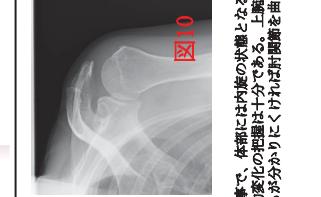
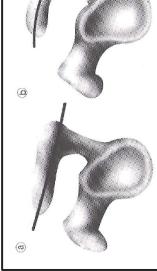


図34

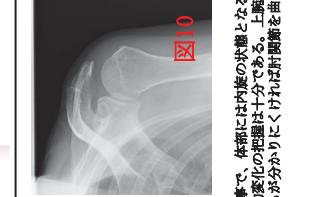
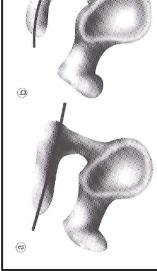


図35

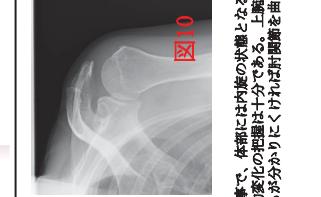
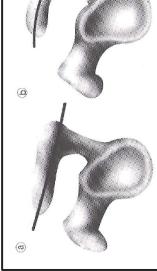


図36

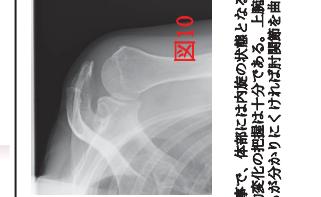
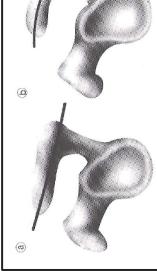


図37

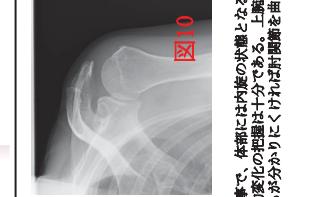
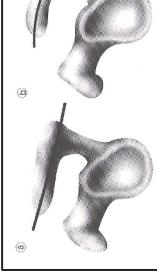


図38

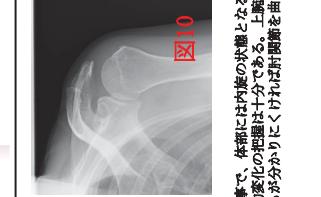
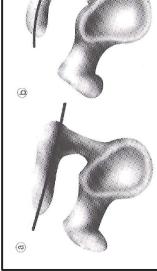


図39

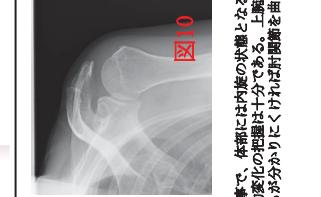
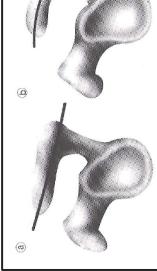


図40

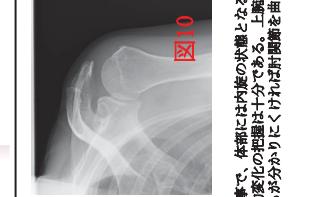
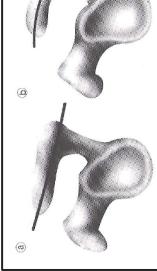


図41

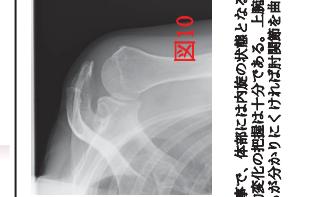
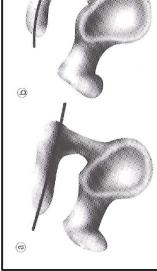


図42

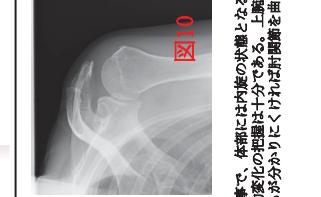
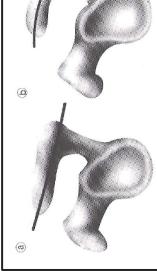


図43

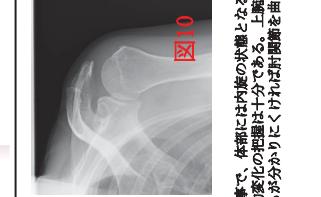
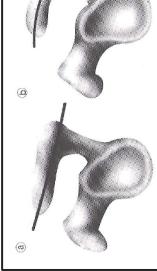


図44

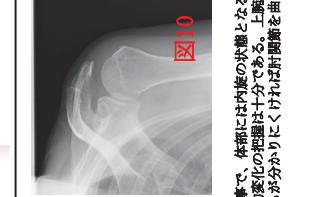
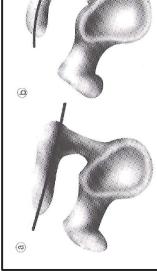


図45

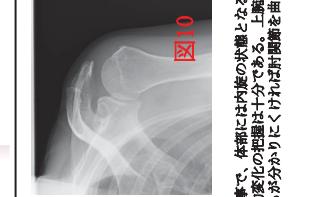
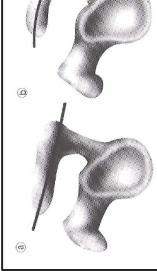


図46

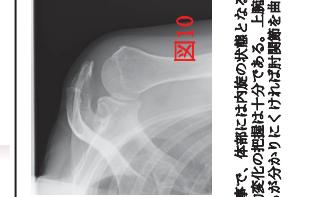
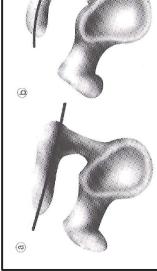


図47

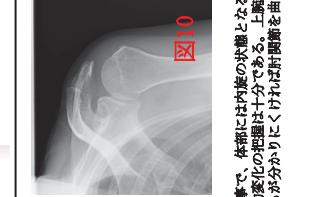
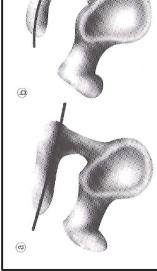


図48

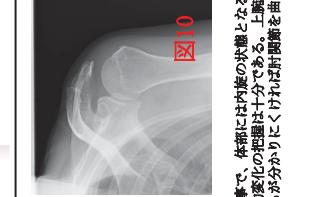
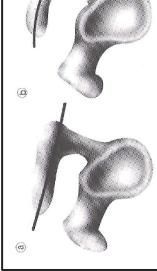


図49

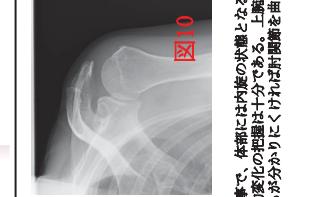
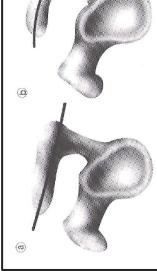


図50

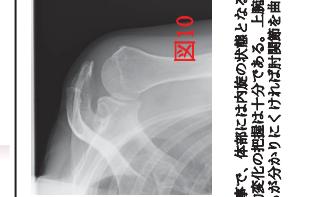
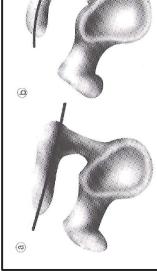


図51

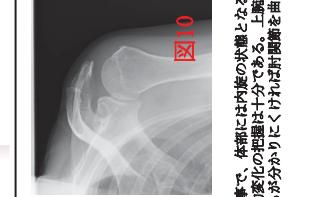
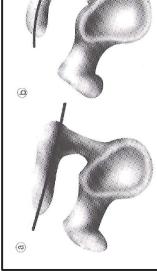


図52

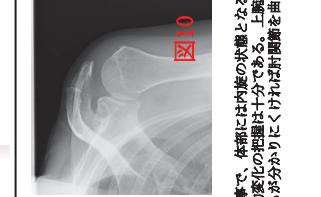
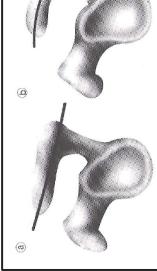


図53

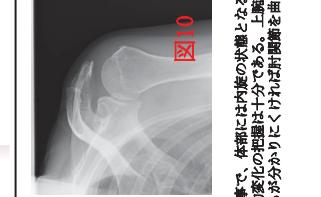
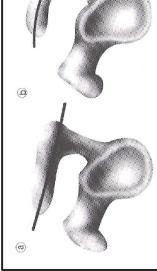


図54

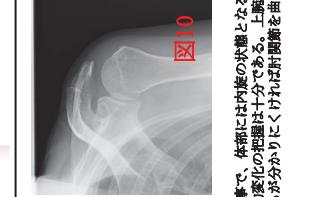
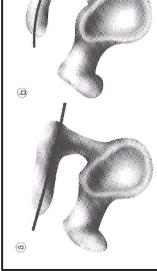


図55

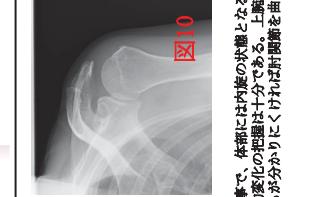
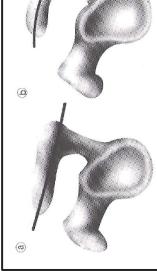


図56

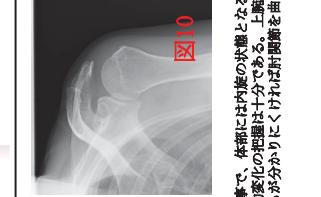
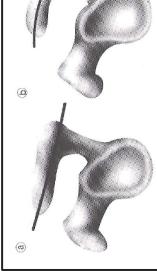


図57

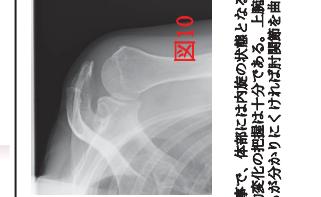
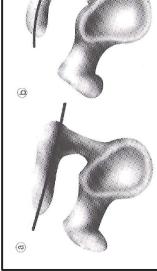


図58

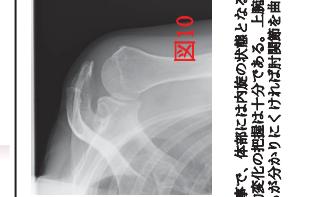
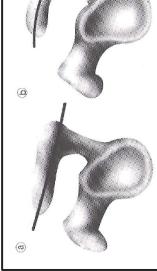


図59

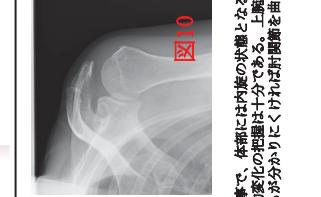
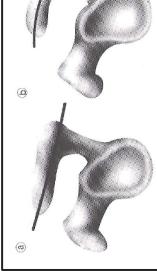


図60

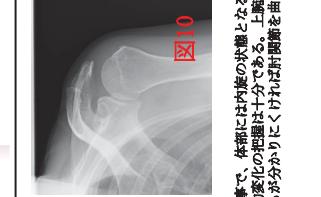
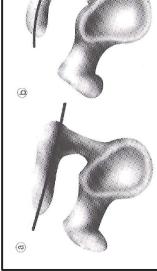


図61

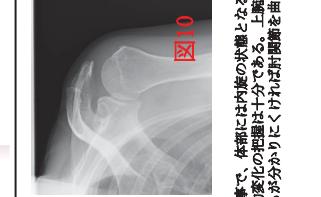
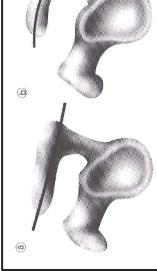


図62

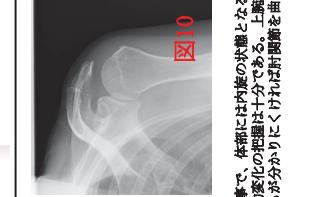
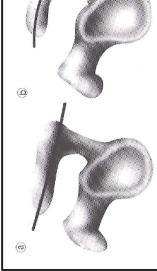


図63

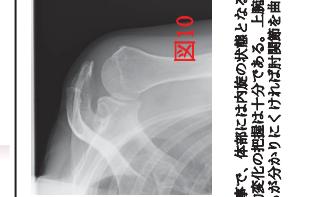
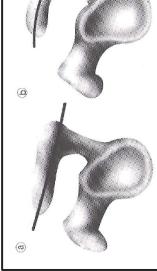


図64

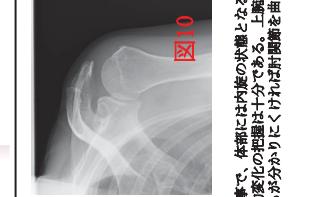
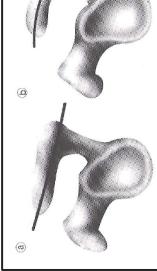


図65

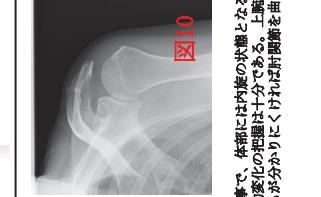
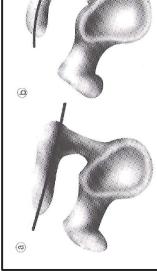


図66

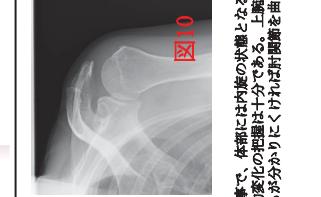
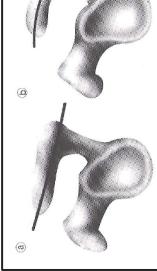


図67

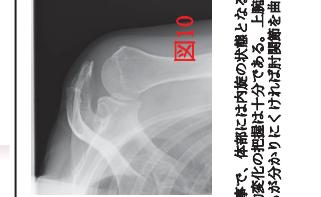
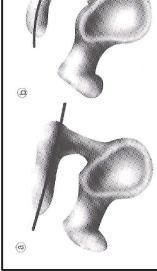


図68

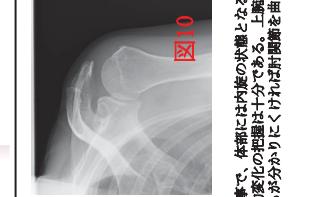
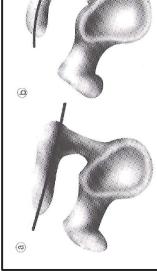


図69

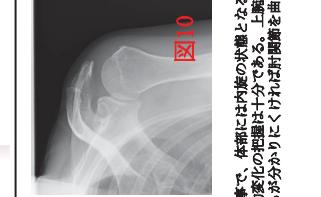
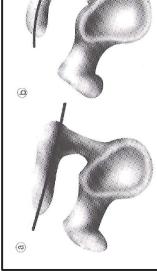


図70

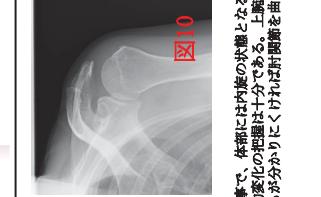
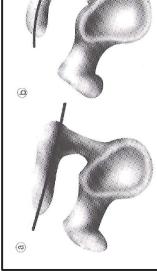


図71

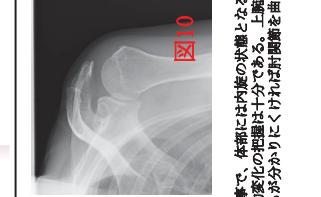
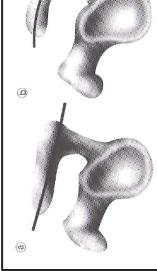


図72

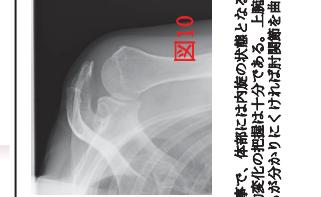
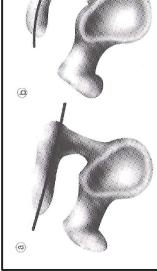


図73

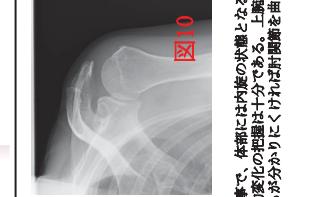
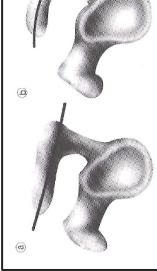


図74

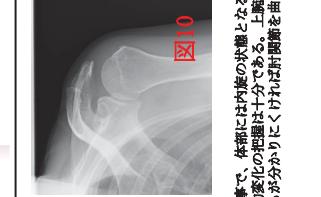
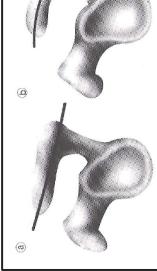


図75

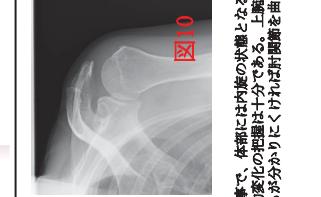
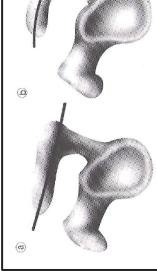


図76

